令和8年11月6日　宮城県環境生活部消費生活・文化課

令和8年度宮城県芸術選奨及び同新人賞受賞者一覧表　（別紙1／2）

【芸術選奨】　部門順・敬称略

受賞者・部門	受賞理由（概要）	主な作品等
伊藤　信義 （いとう　のぶよし・66歳） 美術（洋画）部門 	昭和34年生まれ。 多重露出を連想させる独自の表現による作品制作を続けており、「行動展」や「新現美術協会展」などにおいて高い評価を得ている。長年にわたり県内外の公募展で活躍し、令和6年には第85回河北美術展において最高賞である河北賞を受賞したほか、令和7年からは同展の招待作家となるなど、本県洋画界を代表する作家の一人として活躍している。 令和7年度も意欲的な創作活動を展開し、第86回河北美術展への招待出品のほか、第80回行動展、第62回宮城県芸術祭などに出品した。また、大衡村ふるさと美術館において「Layer−層−・伊藤信義絵画作品展」が開催され、会期中には会場内においてヴァイオリン奏者を招いたコンサートも実施されるなど、多くの来場者を魅了した。 今後も県内洋画界を担う作家の一人として意欲的に作品発表を続けるとともに、県内美術団体の運営や後進の育成にも取り組みながら、本県文化芸術の振興に寄与していくことが期待される。	 「ねこのめ」
馬場　興彦 （ばば　おきひこ・69歳） 美術（工芸）部門 	昭和31年生まれ。 河北工芸展や宮城県芸術祭、日本伝統工芸展など数多くの公募展において入選・受賞を重ねてきたほか、県の文化交流事業や文化庁東北復興支援事業に携わるなど、陶芸を通じた文化芸術の振興に貢献してきた。また、各種展覧会の運営や後進の育成に尽力するとともに、小学校での陶芸指導やこども鑑賞会の講師を務めるなど、幅広い世代への陶芸文化の普及にも積極的に取り組んできた。 令和7年度は、第53回伝統工芸陶芸部会展、第65回東日本伝統工芸展及び第72回日本伝統工芸展に入選したほか、日本工芸会正会員に認定されるなど、高い技術力と創作活動が評価された。また、作品制作と並行して陶芸指導等にも取り組み、陶芸文化の普及と後進の育成に尽力した。 今後も優れた作品の制作を続けるとともに、指導者として次代を担う人材の育成に取り組みながら、本県工芸界のさらなる発展に寄与していくことが期待される。	 「泥彩稜線文花器」
千葉　紅雪 （ちば　こうせつ・72歳） 美術（書）部門 	昭和29年生まれ。 現代書の分野において独自の墨による表現を追求し続けており、特に前衛書の分野で高い評価を得ている。四半世紀にわたり「いのり」をテーマとして淡墨表現の可能性を探求し、第38回及び第39回河北書道展で河北賞を受賞したほか、第71回毎日書道展で会員賞を受賞するなど、長年にわたり意欲的な創作活動を続けながら現代書の発展に貢献してきた。 令和7年度は、第79回毎日書道展、第62回宮城県芸術祭書道展及び第72回河北書道展に作品を出品したほか、令和8年3月には個展「墨のスペクトル－祈りの造形－千葉紅雪展」を開催し、これまで積み重ねてきた表現の深化と新たな創作成果を発表した。 今後も独創的な現代書の表現を追求しながら意欲的に作品の発表を続けるとともに、長年の経験を生かして後進に示唆を与え、本県書道界のさらなる発展に寄与していくことが期待される。	 「いのり　無限の時の中で」
大沼　英樹 （おおぬま　ひでき・56歳） 美術（写真）部門 	昭和44年生まれ。 桜をはじめ地域の風土や人々を題材とした作品を長年にわたり発表し続けており、毎年のように個展や企画展を開催するとともに、多くの写真集を刊行するなど精力的な創作活動を展開してきた。平成17年に宮城県芸術選奨新人賞を受賞したほか、「幸福の種蒔き桜」や「広瀬川」シリーズなどを通じて独自の視点から地域の魅力を発信し続けており、本県写真文化の振興に大きく貢献してきた。 令和7年度は、写真集「パレットの肖像」を刊行したほか、晩翠画廊及び塩竈市杉村惇美術館において同名の個展・企画展を開催した。同作品では、これまでの表現手法に加え新たな写真表現にも挑戦するなど、写真家としてさらなる深化を続ける創作活動を展開した。 今後も意欲的に作品を発表するとともに、写真文化の魅力を広く発信しながら、県内外の写真家や写真愛好家に刺激を与え続け、本県写真文化のさらなる発展に寄与していくことが期待される。	 「それでも咲いていた千年桜」
木村　紅美 （きむら　くみ・50歳） 文芸部門 	昭和51年生まれ。 平成18年に第102回文學界新人賞を受賞してデビューして以来、20年にわたり30作を超える小説作品を発表してきた。平成20年の第139回芥川賞、平成25年の第35回野間文芸新人賞、平成29年の第158回芥川賞及び第40回野間文芸新人賞の候補となったほか、令和4年には「あなたに安全な人」で第32回Bunkamuraドゥマゴ文学賞を受賞するなど、高い評価を得てきた。 令和7年度は、東日本大震災後の東北を舞台とした小説「熊はどこにいるの」で第61回谷崎潤一郎賞を受賞した。同賞は時代を代表する優れた小説・戯曲を対象とする国内有数の文学賞であり、その受賞は氏の優れた文学性と確かな実力を示すものである。また、第9回仙台短編文学賞の選考委員を務めるなど、後進の育成にも積極的に取り組んだ。 今後も独自の視点と世界観による作品を継続して発表するとともに、小説家を志す若い世代に刺激と目標を与えながら、本県文芸界のさらなる発展に貢献していくことが期待される。	 「熊はどこにいるの」

令和8年度宮城県芸術選奨及び同新人賞受賞者一覧表　（別紙2／2）

【芸術選奨新人賞】　部門順・敬称略

受賞者・部門	受賞理由（概要）	主な作品等
數本　冴英佳 （かずもと　さえか・33歳） 美術（日本画）部門 	平成5年生まれ。 平成27年の第52回宮城県芸術祭公募の部宮城芸術協会賞をはじめ、第56回宮城芸術協会会員の部宮城県知事賞、第60回宮城県芸術祭絵画会員の部宮城県芸術祭賞など、県内の主要な公募展において数々の賞を受賞してきた。また、晩翠画廊をはじめとする県内の展覧会に継続的に出品するなど、意欲的な創作活動を続けてきた。 令和7年度は、第86回河北美術展において「花今宵」で宮城県知事賞を受賞したほか、「ナマブミ展Vol.2」や「東北芸術工科大学OB展－Bad Out－」への出品、新春小品展「紅と白」への参加など、積極的な作品発表を行った。また、優れた作品制作を通じて県民が日本画に親しむ機会の創出にも寄与した。 今後も若手日本画家の一人として意欲的に作品を発表し続けるとともに、これまで培ってきた経験や技術を若い世代に伝えながら、本県文化芸術の発展と次代を担う人材の育成に寄与していくことが期待される。	 「花今宵」
熊谷　駿 （くまがい　しゅん・35歳） 音楽部門 	平成3年生まれ。 サックス奏者として国内外で幅広く活動しており、平成26年の「日米友好関係祝賀パーティー」、平成28年の「東日本大震災復興式典」などアメリカでの招待演奏をはじめ、多数のコンサートやイベントに出演してきた。また、熊谷駿ジャズコンサート「BOP CASTLE」シリーズを継続的に開催するほか、楽都仙台と日本のジャズ史展への参画や楽曲アレンジの提供など、ジャズの魅力の発信と地域の音楽文化の振興に精力的に取り組んできた。 令和7年度は、ライブレストランJ'Zの音楽プロデューサーを務めたほか、定禅寺ストリートジャズフェスティバルに出演した。また、令和8年1月にはプロ活動10周年記念熊谷駿ジャズコンサートツアー「Bop Explosion」を開催し、自身のオリジナル楽曲を含むプログラムを披露するなど、意欲的な演奏活動を展開した。 今後も優れた演奏活動を続けるとともに、多様な音楽家との交流や協働を通じて地域の音楽文化の発展や、子どもたちへの継続的な指導を通じて次代を担う人材の育成にも貢献していくことが期待される。	 「熊谷駿ジャズコンサート　BOP EXPLOSION」
平澤　真悟 （ひらさわ　しんご・32歳） 音楽部門 	平成6年生まれ。 都山流尺八准師範として研鑽を重ね、令和3年に世界中の尺八演奏者が技量を競う「2021国際尺八コンクール」において銀賞(和歌山県知事賞)を受賞するなど、高い演奏技術が評価されてきた。また、自主公演を企画・展開するプロデュース力を有しており、幅広いジャンルの演奏家との共演に積極的に取り組み、尺八の新たな可能性を追求しながら、その魅力の普及と若手演奏家たちが活躍できる環境の醸成に尽力している。 令和7年度は、「平澤真悟尺八コンサート～和の調べ～」での演奏のほか、生田流箏曲清絃会創立130周年記念箏演奏会に尺八奏者として参加した。また、令和8年3月には大正園での独奏会において様々な無伴奏曲を披露し、都山流本曲、民謡、現代邦楽など多彩な楽曲に取り組むなど、意欲的な演奏活動を展開した。 今後も多くの人々に尺八や邦楽の魅力を伝えるとともに、古典から現代まで幅広い演奏活動を通じて邦楽文化の普及に貢献し、本県音楽文化の発展を担う演奏家としてさらなる活躍が期待される。	 「平澤真悟尺八コンサート～和の調べ～」
片倉　久美子 （かたくら　くみこ・47歳） 演劇部門 	昭和54年生まれ。 石川裕人氏が主宰したTheatreGroup”OCT/PASS”での活動を経て、演劇ユニット石川組をはじめ、県内の様々な舞台作品等に出演し、長年にわたり俳優として活動を続けてきた。独特の感性と確かな演技力を持ち、多様な役柄を幅広く演じ分けるとともに、主役・脇役を問わず強い存在感を発揮する俳優として、本県演劇界の発展に貢献している。 令和7年度は、PlayKENJI「見える幽霊」石川組版において賢治の父・政次郎役を演じたほか、音楽のおもちゃ箱「どなたでもコンサート」シリーズに出演した。また、演劇ユニット石川組「祖母からみれば僕たちは荒れ果てたさかしまの夜にうち捨てられた野良犬の骨のようだ」では祖母役を務めるなど、長年の経験に裏打ちされた演技を披露し、精力的な活動を展開した。 今後も俳優として多様な舞台や芸術活動で個性豊かな演技を発揮するとともに、アウトリーチ活動等を通じて演劇の魅力を伝え、本県演劇文化の発展に寄与していくことが期待される。	 「祖母からみれば僕たちは荒れ果てたさかしまの夜にうち捨てられた野良犬の骨のようだ」
佐藤　そのみ （さとう　そのみ・30歳） メディア芸術部門 	平成8年生まれ。 東日本大震災を題材とした映画「春をかさねて」「あなたの瞳に話せたら」の制作により注目を集め、東京ドキュメンタリー映画祭2020短編部門準グランプリ・観客賞を受賞するなど、若手映像作家として高い評価を得るとともに、地域の映像文化の振興に寄与してきた。 令和7年度は、若手映画作家育成事業「ndjc：若手映画作家育成プロジェクト2024」により制作した「スリーピング・スワン」を公開したほか、「春をかさねて」「あなたの瞳に話せたら」が国内外で上映され、京都国際こども映画祭長編部門グランプリを受賞した。また、映画祭での登壇やエッセイの連載、震災伝承に関する講座への参加など、映像作家の枠を超えた幅広い活動を展開した。 今後も優れた映像作品を発表するとともに、震災や地域社会と向き合う創作活動を通じて多くの人々に新たな視点を提供し、日本映画界を担う若手作家の一人として、本県文化芸術の発展に寄与していくことが期待される。	 「春をかさねて」

記載している年齢は令和8年11月1日時点の年齢です。